

南三陸のカキが日本初  
ASC国際認証取得

海を守る漁師の気概が育んだ  
“戸倉っこかき”

カキやワカメ、ホヤなどの養殖業が盛んな南三陸町。整然と並んだ養殖棚や船は、震災によりすべて失われました。戸倉地区の漁師の方々は、これからも海と生きていくためには、自分たちも新しいチャレンジが必要と結束。2016年3月、養殖による水産物として、二枚貝養殖では初めて“戸倉っこかき”が国際的エコラベルASCの認証を受けました。



“がんばる養殖復興支援事業”で海を守る

「震災前まで志津川湾は養殖棚の過密状態で、カキの生育環境としてはあまりよくありませんでした」佐藤俊光さんは、それまで互いに競い合うように収量を増やしたカキ漁師たちが“がんばる養殖復興支援事業”で一つにまとまり、共同意識が生まれたと言います。この取り組みは2012年から3年間、水揚げは国が買い取り、施設や資材は共同使用しながら、復興の足がかりとするものでした。その結果、豊かな漁場の確保や海洋環境などが改善されました。湾内に注ぐ河川上流の山々には1992年からブナの植林が進められており、森と海の栄養をたっぷり吸いこんだ大ぶりのカキが育つようになったのです。



▲宮城県漁業協同組合志津川支所長 佐藤俊光さん

戸倉地区に残る、人びとをつなぐ地域の力

50年以上カキ漁を営む村岡賢一さんは、戸倉は昔から人のつながりが強く、相互扶助の精神を大切にしていると言います。

「戸倉には各地区に契約請という組織があり、祭りや行事などが盛んでコミュニティがしっかり形成されています」村岡さんは、町が指定した民俗文化財の行山流水戸辺鹿子躍のルーツが戸倉にあることを知り、保存会を立ち上げ地域一体となって復活させました。そんな地域の結束力が、震災後の養殖漁業をどうするかという、激しい議論のぶつかり合いを一つにまとめたのです。



▲「戸倉漁師の会」顧問・村岡賢一さん

養殖いかに数は震災前の3分の1ほどになりましたが、海の環境が好転して成長が早くなり、1年で立派な身をつける“戸倉っこかき”が出荷されています。市場での評価はこれからですが、このASC認証の安全・安心なブランドカキには、戸倉の漁師たちの心意気が込められています。



▲身が大きく、しっかりとした濃厚な味わいの「南三陸戸倉っこかき」



▲「戸倉漁師の会」のみなさんと顧問・村岡賢一さん(前右)、会長・松岡孝一さん(前左)

「南三陸戸倉っこかき」をはじめ、タコやホタテ、ワカメなど、南三陸自慢の味を販売しています。  
漁協直販所 JFタブの木  
本吉郡南三陸町戸倉津の宮5  
TEL0226-47-3521



宮城支店 TEL022-225-2141

- お引越し・アンペア変更 0120-175-266
- 停電・緊急時のお問い合わせ 0120-175-366
- 電気設備に関する問い合わせ 0120-175-377
- その他のお問い合わせ 0120-175-466

※お電話がつながりにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ※お問い合わせの内容によっては、担当部署からの折り返しの電話により対応させていただきます。

おでかけ暦 12月 1月 2月

※期間・会場等はすべて予定です。詳細は各市町にお問い合わせください。

<b>女川町</b> <b>金華山黄金山神社大祓式・除夜式</b> 日時:12月31日(土) 場所:金華山黄金山神社	<b>涌谷町</b> <b>簗岳・白山祭</b> 日時:1月22日(日)14:00~ 会場:簗岳山簗峯寺 <b>第9回 食の町民まつり</b> 日時:2月4日(土)11:00~13:30(予定) 会場:わかや天平の湯 小劇場 世代館
<b>石巻市</b> <b>サン・ファン イルミネーションツリー2016</b> 日時:12月9日(金)~12月31日(土) 16:30~20:00 会場:サン・ファン館 <b>おめつき 火伏せ祭り</b> 日時:1月24日(火)10:00~13:30 会場:雄勝町名振地区	<b>美里町</b> <b>第44回ごごどんと祭</b> 日時:1月14日(土) 会場:山神社 <b>すっばこスタンプキャンペーン</b> 日時:11月1日(火)~2月28日(火)まで 会場:町内キャンペーン参加店舗
<b>登米市</b> <b>石越冬のまつりと石越どんと祭</b> 日時:1月14日(土) 会場:石越町 石越総合運動公園 <b>とよま凧あげ大会</b> 日時:2月5日(日) 会場:登米町 北上川堤防 <b>米川の水かぶり (国指定重要無形民俗文化財)</b> 日時:2月12日(日) 会場:東和町米川五日町地区 法輪山大慈寺山門広場	<b>南三陸町</b> <b>おすばでまつり福興市</b> 日時:12月29日(木)9:00~13:30(予定) 会場:志津川仮設魚市場 <b>志津川湾寒鰯まつり福興市</b> 日時:1月22日(日)9:00~13:30(予定) 会場:志津川仮設魚市場
<b>東松島市</b> <b>野蒜海岸初日の出</b> 日時:1月1日(日)元旦6:30~ 会場:野蒜海岸(鳴瀬川河口付近) <b>新春お楽しみ演芸会&amp;ポヌールマルシェ</b> 日時:1月21日(土)10:00~14:00 会場:蔵しっくばーく	

原子力なるほどのクイズ

ご応募いただいた方の中から、抽選で**20名様**に、**南三陸町の特産品「海産加工品の詰め合わせ」**を差し上げます。

原子力技術訓練センターの年間受講者は延べ約何人でしょう?

クイズ ① 16人 ② 160人 ③ 1600人

※中面にヒントがあります。

■応募方法  
ハガキに、右記の必要事項をご記入の上、ご応募ください。

■応募締切  
平成29年1月20日(金)

※当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。  
※商品は季節により内容が変更となる場合がございます。  
※クイズの応募ハガキで知り得たお客様の個人情報は当選者への商品の発送のみに使用します。また、いただいた意見については、今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。

52円 98060005

仙台市青葉区中央四丁目6番1号 東北電力宮城支店「原子力なるほどクイズ」係

①クイズの答え  
②お名前(ふりがな)  
③年齢  
④性別  
⑤ご職業  
⑥郵便番号  
⑦ご住所  
⑧電話番号  
⑨「東北電力からのお知らせ」に対するご感想  
⑩東北電力に対するご意見、ご要望

より、そう、ちから。

東北電力からのお知らせ

本誌は女川原子力発電所が立地している女川町、石巻市と、隣接する登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町の皆さまに向けたコミュニケーション誌です。



緊急時における対応力を向上するため  
さまざまな事態を想定した訓練を  
継続的に実施しています

女川原子力発電所では、緊急時の判断力と技能の向上にむけて、原子力災害の発生を想定した訓練をくり返し実施しています。11月11日には宮城県など関係自治体(※)が主催する「平成28年度原子力防災訓練」に参加。「宮城県沖で地震が発生し、2号機において全ての交流電源が失われ、原子炉を冷やすことができなくなり炉心損傷に至る」という想定のもと、事故収束に向けた各種訓練を行いました。また国や関係自治体、オフサイトセンターなどと連携を確認しました。こうした一連の訓練を通じ、所員一人ひとりの対応能力を高め、安全確保をより強固なものにしていきます。



※関係自治体/宮城県・女川町・石巻市・登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町

▲オフサイトセンターでの訓練の様子(11月11日撮影)

# 緊迫した訓練をくり返し 万一の事態に備える



女川原子力発電所は、建設当初から、その時々新たな知見を反映し、安全に「備え」てきました。先人が築き上げてきたこの「備え」の考えのもと、設備による安全対策を確実に機能させるため、様々な事態を想定した訓練を実施しています。

原子炉を運転するのは「人」

— 緊急時の対応力向上 —

いかなる事態にも冷静・迅速・的確に対応する



▲電源が全て使えなくなった事故を想定した訓練



冷静な対応と的確な操作  
運転停止中でも  
厳しい訓練が続く

前川 稔  
発電部(発電管理G)(仙台市出身・女川町在住)

発電所の安全性を高めるため、代替電源や代替注水などを複数配置しています。万一緊急事態が発生した場合、これらの設備を迅速・的確に機能させることが必要です。現在、発電所は運転停止中ですが、運転時・停止時にかかわらず、冷静に対応できるよう、様々なトラブルを想定した訓練を続けています。地域を想う気持ちを厳しい訓練に込める。それが私の発電所員としての誇りです。

電源は安全確保の命綱

— 電源を確保 —

高台にある複数の電源を柔軟に活用する



▲電源車のケーブルを接続する電源確保訓練



地域の皆さまの信頼に  
多重な安全対策と  
日々の訓練で応えていく

高橋 秀輔  
保全部(電気G)(石巻市出身・女川町在住)

電源車や大容量電源装置を配置し、更にガスタービン発電設備を追加するなど、多重な備えで電源を確保することとしています。平時より様々な停電トラブルを想定し、電源設備を確実に起動して代替の電源を確保できるよう、電源車のケーブル接続訓練などを行っています。地域に寄り添う東北電力の一員として、地域の皆さまの信頼に応えてまいります。

迅速・確実に冷やす

— 冷やす手段を確保 —

原子炉を安全に保つための冷却水を確保する



▲仮設プールの水を送水車でくみ上げる訓練



原子炉を安全に保つためには  
冷やし続けることが必要

菊池 琢  
保全部(原子炉G)(岩手県出身・女川町在住)

原子炉を確実に冷やすため、代替注水車や送水車など多様な設備を適切な場所に配置しています。そのため訓練では万一の事故を想定し、原子炉を冷やすための海水ポンプが停止した場合に送水車で海水をくみ上げる訓練などを行っています。非常に厳しい訓練ですが、自分たちの訓練が発電所を守り、地域の皆さまの暮らしと自然を守ることに繋がると確信しています。

## 原子力技術訓練センター ～年間延べ約1600人が受講～ 運転訓練や安全確保のペースとなる教育で意識・技能の向上を図る

原子力技術訓練センターでは、経験豊かな所員や外部の専門家が講師となり、2号機の中央制御盤を模した操作盤を用いた発電所の運転訓練や安全確保に関する教育を行っています。“万一の事故”を念頭に、所員が様々なトラブルに対応できるよう、意識・技能の向上を図っています。



▲講師が様々な事故の状況を操作盤で発生させ、受講者は的確な操作・行動を反復



▲誤った作業事例を体感することが安全確保に繋がることを受講生に説明



過酷な事故想定や  
“誤った作業事例”  
の体感で知識と  
技術を身体で吸収

亀山 義弘  
技術統括部(計画管理G)  
(仙台市出身・石巻市在住)

原子力技術訓練センターでは、シミュレーター装置を使って万一の事故への対応や発電所内での様々な設備トラブルへの対応など緊迫感に満ちた訓練を行います。受講者は“誤った作業事例”を体感して知識と技術を身体で吸収しています。教育担当者として、所員への教育を通じ、自分もより成長していければと思っています。

お知らせ

### 女川原子力発電所2号機の新規制基準適合性に係る審査状況

女川原子力発電所2号機は、平成25年12月27日の新規制基準適合性審査申請以降、原子力規制委員会の審査を受けており、これまでに審査会合が84回行われています。(平成28年11月末現在)

「地震・津波」の審査では、主要な地震動や基準津波に対して「概ね妥当な検討がなされている」との評価をいただいています。

詳しくは当社のホームページ  
(<http://www.tohoku-epco.co.jp>)をご覧ください。